

令和2年度第2回川崎市資産改革検討懇談会（議事録）

- 1 開催日時 令和3年1月18日（月）午後1時00分～午後2時00分
- 2 開催場所 Web会議にて開催
- 3 議題（公開）
 - （1）施設白書について
 - （2）次年度附属機関（川崎市公共施設マネジメント推進委員会）について
- 4 傍聴者数 0人

5 会議内容

（1）施設白書について

行政側出席者

資料1～資料4について説明。

有識者委員

資産保有の最適化の対外的な説明について、資料1の「1 施設白書の概要・策定趣旨」の●1つ目にある「安全・安心な公共サービスを提供する」というスタンスで説明をしてはどうかと思う。例えば、「施設の老朽化が進んでいるので、市民の安全を守るため最適化を行う。」「保育園や高齢者施設のニーズがあり、それらを充実させることによって安心な公共サービスを提供する。」といった視点から説明するとよいと思う。

●2つ目に「公共建築物を施設の用途や目的別に区分」とあり、用途は理解できるが、目的別に区分するとはどのような意味か。

行政側出席者

用途と目的は近いものであることから、施設白書本編では用途で整理をすることを考えている。

有識者委員

各区は施設の利用状況は把握しておらず、地域資源のみを把握しているのか。

行政側出席者

各区は、各地区にどのような地域資源があるかは把握しているが、各施設の利用率は各施設所管課で把握しており、各区で全て把握しているわけではないと考えている。

有識者委員

各区が市民に一番近いので、各区が地区カルテにある団体から直接市民ニーズを聞くというのが一つの方法かと思うが、先に施設の利用状況を区が把握していないと、何を聞いてよいかわからないという状況になると思う。まずは、各局が利用状況を整理したものを各局に渡して、お互いに問題点を把握するのが先だと思う。また、市民ニーズを聞く際にも、漠然と何か欲しいものがありますか、という聞き方ではなく、ある程度市側から提案しないと、市民の方も答えられないと思う。

一方、川崎市には共働きの世帯が多く転入している。その中には町内会には入っていない人も想定され、そうした人達にはヒアリングできない可能性がある。多様な意見をどのように吸い上げるのが課題である。例えば、PTA関係の方々から話を聞くと、若い世代のニーズを把握できるきっかけになると思う。

行政側出席者

市民ニーズと施設情報の分析が重要になると考えている。様々な分析の方法はあると思うが、この分析についてご意見等をいただければと思う。

有識者委員

人口動態（0～14歳の人口はどの地区が増えているか等）、転入者・転出者の年齢分析、高齢化の進行状況などはその地域のニーズを動かし、ニーズのベースとなるものである。また、可能であれば建築着工件数の動向や空き家率も把握できると、地区の動態を分析することが可能となり、必要な施設が分かるようになる。街の中での人の動きが重要だと思う。

行政側出席者

施設白書そのものの分析に加え、今いただいたご意見のような、公共施設が属する地域の状況を分析した方がよいということか。

有識者委員

そのとおりである。今から新たに調査するというのではなく、既にあるデータを使えばよい。それと施設利用率を合わせて分析するとよいと思う。

行政側出席者

資産保有の最適化の説明そのものをどう説明していくのが悩ましいところだと考えている。具体的に資産保有の最適化を検討している施設があれば説明はできると思うが、そういった施設がない地区においてどう説明をしていけばよいか、ご意見があれば伺いたい。

有識者委員

資産保有の最適化は、何でも施設を合体するというものではなく、現在市が保有している

施設について、市民ニーズに合わなくなっている施設があることから、それについて、市民ニーズを満たすように活用を考えていく、といった説明をしていくべきではないか。「市民ニーズへの最適化」といったイメージだと思う。こういった考えで施設を今後運用したり、建替えたりしていきたいという説明が一番わかりやすいと思う。

(2) 次年度附属機関（川崎市公共施設マネジメント推進委員会）について

行政側出席者

資料5について説明。

※質疑、意見については特になし。

以上